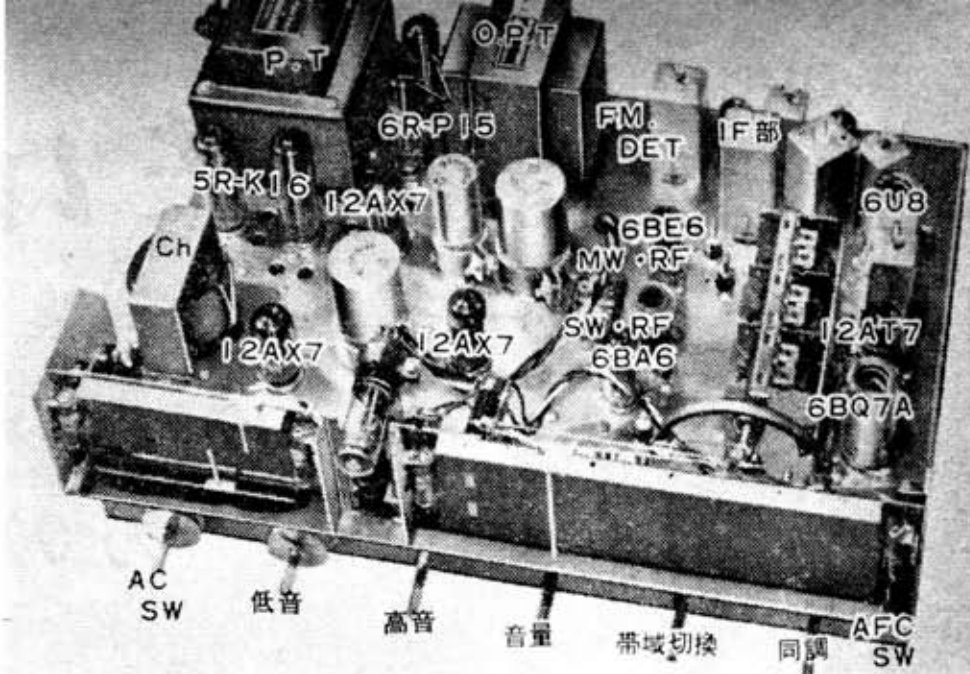


〔第2図〕 FM・SW感度・映像妨害比特性
変調周波数400c/s・変調率30%

つぎに、アンプ回路のトップについているカソードホロワー付きのトーン回路が嬉しい素材である。周知のようにカソードホロワーによつて出力インピーダンスが下がるので、CR型トーンコントロールの特性がずつとよくなる長所を備えている。(第1図)

このトーンコントロール回路に一層箱をつける意味をもたせるのが横行ダイヤル式のインジケータであろう。

零を中心に±5まで10等分目盛を使

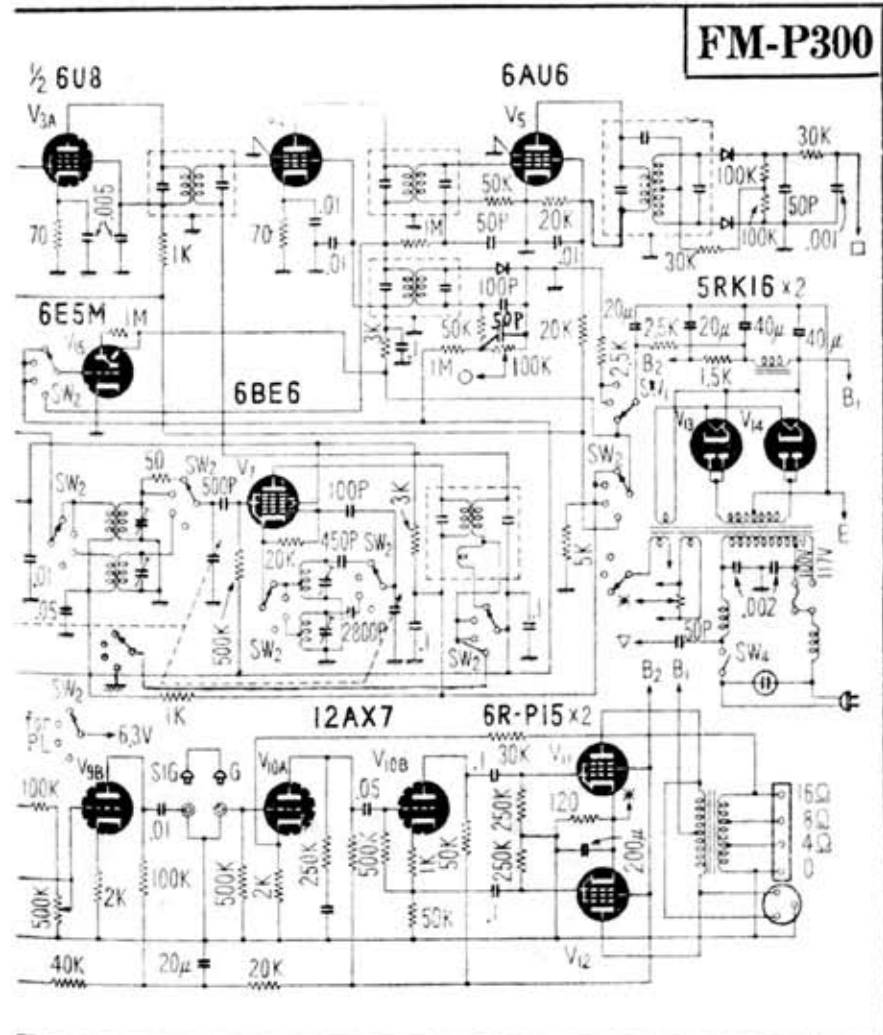


つているが、まさか 15db という変化が 4.7 倍—約 5 倍—に相当するところまで考えてのものではないと思えるが……。

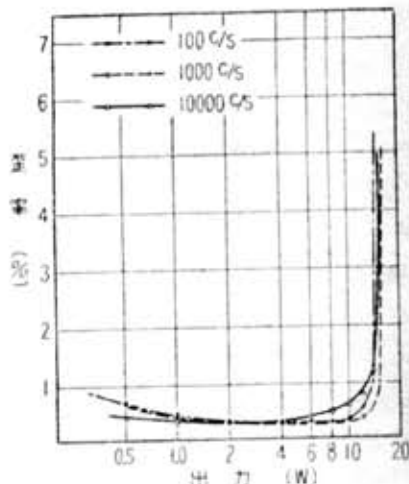
高周波部分に眼を転ずると、FMバンドの3極管カソード型は同社のFMチューナ以来の伝統だが、MW、SWにも高周波増幅をもうけている。

また、同調型高周波増幅の効果はや

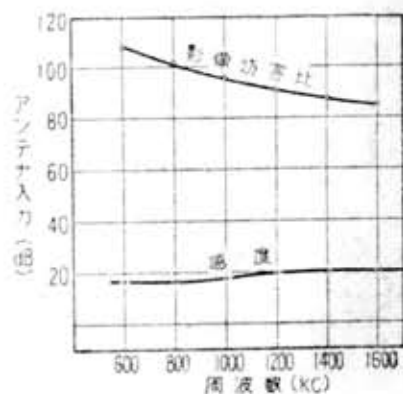
はり仲々のもの。各バンドとも出力 0.5W で 10 μ V (SN比 30dB) におさえている点、一寸したアマチュア製通信機以上の感度だ。むしろ高価なセットであるから温度特性の点も十分に検討され、前回から今回の発表の間に、シャシ上の配置、回路上の若干の変更が見られているが、更に今後の進歩、発展を期待してメンをおく。(Q)



FM-P300



〔第3図〕 出力対歪率特性



〔第4図〕 中波感度・映像妨害比特性